

———医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読み下さい。———

「使用上の注意」改訂のお知らせ

2022年7月

オキサゾリジノン系合成抗菌剤

リネゾリド点滴静注600mg/300mL(HK)

(リネゾリド注射液)



謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
この度、標記製剤につきまして、自主改訂により下記の通り改訂いたしますのでご案内申し上げます。
今後のご使用に際しましては、下記内容をご参照下さいますようお願い申し上げます。
今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

●改訂箇所（ _____ : 改訂箇所）

改訂後			改訂前		
【使用上の注意】			【使用上の注意】		
3. 相互作用			3. 相互作用		
併用注意（併用に注意すること）			併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(現行通り)			(省略)		
セロトニン作動薬 <u>炭酸リチウム</u> <u>セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤 (SNRI)</u> <u>選択的セロトニン再取り込み阻害剤 (SSRI)</u> <u>トリプタン系薬剤</u> <u>レトリプトファン含有製剤</u> <u>トラマドール塩酸塩</u> <u>フェンタニル</u> <u>メサドン塩酸塩</u> <u>ペチジン塩酸塩</u> 等	セロトニン症候群の徴候及び症状（錯乱、せん妄、情緒不安、振戦、潮紅、発汗、超高熱）があらわれるおそれがあるので、十分に注意すること。 これらの徴候や症状が認められた場合には、本剤と併用薬の両方あるいはいずれか一方の投与を中止するなど適切な処置を行うこと。なお、セロトニン作動薬の急激な減量又は投与中止により離脱症状があらわれることがあるので注意すること。	本剤は非選択的、可逆的MAO阻害作用を有する。	セロトニン作動薬	セロトニン症候群の徴候及び症状（錯乱、せん妄、情緒不安、振戦、潮紅、発汗、超高熱）があらわれるおそれがあるので、十分に注意すること。 これらの徴候や症状が認められた場合には、本剤と併用薬の両方あるいはいずれか一方の投与を中止するなど適切な処置を行うこと。なお、セロトニン作動薬の急激な減量又は投与中止により離脱症状があらわれることがあるので注意すること。	本剤は非選択的、可逆的MAO阻害作用を有する。
(現行通り)			(省略)		

【改訂理由】

同一成分薬においてCCDS（企業中核データシート）が変更されたことに伴い、「3. 相互作用」の「併用注意」の項のセロトニン作動薬の記載を整備いたしました。

以上

- 今回の改訂内容につきましては医薬品安全対策情報（DSU）No.310（2022年8月）に掲載される予定です。
- 薬機法改正に伴い個装箱への添付文書の同梱を順次廃止いたします。流通の関係上、改訂前の添付文書が封入されている場合がございますこと、何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。
- 改訂後の電子添文の情報は医薬品医療機器総合機構ホームページ <https://www.pmda.go.jp/> 並びに弊社ホームページ <https://www.hikari-pharm.co.jp/> に掲載されます。
- 添付文書閲覧アプリ「添文ナビ」を用いて以下の GS1 コードを読み取ることも、医薬品医療機器総合機構ホームページ上の最新の電子添文をご覧いただけます。

